【資料】　福井学　はばたきのステージ　その２

〈平成 26 年度〉

6 月 28 日　〇福井が生んだ偉人 地震学の父 大森房吉（旭地区）　作家　上山　明博　氏

大森房吉の生誕地区にある旭公民館との共催事業として、旭公民館を会場に実施した。「大森地震計」を発明し、地震学の父と呼ばれる世界的科学者であった大森房吉の業績や、優しい父として娘たちを慈しみ育てたという家庭面での話などを聞き、参加者は、房吉のすばらしさを再認識していた。今後も出身地区である旭公民館を中心に、郷土の偉人として後世に伝えていく事業等を継続していただくことを期待している。

7 月 12 日　〇演劇に生きた宇野重吉 生誕 100 年を迎えて（文殊地区）　宇野重吉特別事業・演劇実行委員会

宇野重吉のふるさとである文殊地区公民館との共催事業として実施した。映画・演劇に見る宇野重吉の 17 歳から 73 歳までの芸道一生をたどるお話を聞いた後、平乗寺に立ち寄り宇野重吉演劇碑文を読んだ。演劇に生涯を捧げた熱い思いと「福井が一番」という宇野氏の深い郷土愛について学んだ。

8 月 9 日　〇よりよい中央公園再整備をめざす取組（順化地区）　順化公民館　主事　井上　満枝　氏
〇足羽地区歴史ガイドの取組（足羽地区）　あすわ歴史道場　代表　松下　敬一　氏

順化地区では、中央公園の再整備に向けて地区住民の関わりについて何回もの勉強会などを通じて行政へ提言し、一部を取り入れてもらうことができるようになった。
また、足羽地区では、地区の再整備が進む中で、地元の歴史を理解することが大切であるという視点から、あすわ歴史道場を立ち上げて活動を行っている。
いずれも、市民一人一人が当事者意識を持ち、行政に働きかけることが大切であるという内容で、今後も地域と繋がる公民館としての事業を進めていくうえで、大変参考になるものであった。

9 月 13 日　〇食べ処「かじかの里山 殿下」の立ち上げと地域活性化（殿下地区）
殿下の里づくり組合事務局長　堂下　雅晴　氏

立ち上げのきっかけは東日本大震災で、殿下に被害者支援受け入れ委員会を設立したことによる。夏休みにサマーキャンプを実施し被災地の子どもを受け入れたのがきっかけで、活動を維持するためには地区の活性化が必要となった。「かじかの里山殿下」の骨子が固まり、初めての取組であったが、殿下地区の女性の、“理屈より先に実践”の精神のおかげで様々な障害を乗り越えることができた。今後は経営者の視点に立った活動を大事にして、後継者の育成を目的に活動し、誇りを持てる地域活動に取り組みたいと話してくれた。
今後の取組が殿下地区のさらなる活性化につながることを期待したい。

〈平成 27 年度〉

6 月 13 日　〇橋本左内の人となりに学ぶ　～郷土の先人を活かしたひとづくり地域づくり～（春山地区・足羽地区）
春山公民館　館長　柳澤　全之　氏　足羽公民館　館長　善里　嶺信　氏

橋本左内の功績を次世代に伝えていこうと、春山公民館では生誕祭を、足羽公民館では墓前祭を実施している。両公民館ともに祭りには小学校の児童が参列し、橋本左内の歌をうたい、地域の方たちとともに橋本左内の人となりを学んでいる。そして、地域ぐるみで顕彰活動を実践している。
学校と地域が協力し合い、郷土の先人を活かした地域づくり、人づくりの取組は、他の地区にも大いに参考になるものであった。

10 月 10 日　〇地産地消を活かした地域活性化
おもてなしの東郷地区を訪ねて（東郷地区）　東郷公民館　館長　高嶋　了一　氏

東郷公民館を会場として行われ、高嶋館長による概要説明の後、東郷米を使った鯖寿司や味噌汁をいただいた。その後は館長の案内で地区内を散策し、堂田川で実施される「せせらぎコンサート」を見学した。地区では、ふるさとおこし協議会をはじめ 30 の団体が活動しており、「おつくね祭り」「特産品づくり」「町歩きツアー」「せせらぎコンサート」など、年間を通して様々な事業を行っている。まちづくりには組織、リーダー、住民の参加意識が重要だという館長の話が大変印象的であった。

12 月 5 日　〇平家がたどった道（国見地区）　　源平ゆかりの地交流会実行委員会　委員長　辻岡　公雄　　氏

国見地区では、源平ゆかりの地ということから、石川県津幡町と長野県木曽町との３地区で交流活動を行っている。800 年をしのぐ歴史の話を語り伝えて、源義仲を偲ぶ活動を地区民をあげて取り組んでいる。辻岡委員長は、この活動が、今後子どもたちの世代に伝わっていくように継続していくことが課題であると話していた。県外地区との交流を継続するには何かと困難な課題も多いと思われるが、充実した交流が続くことを期待したい。

〈平成 28 年度〉

10 月 29 日　〇殿下の宝に学ぶ　武周ヶ池と地産地消の取組（殿下地区）　　殿下公民館　館長　長井　眞見　氏
武周地区自治会長　佐々木次光　氏

殿下地区を訪れ、公民館の長井館長から、地区の歴史と現在までの取組についての話を聞いた。ここ何年かの取組として、東日本大震災以降に「殿下被災者受入委員会」を設立して、福島県の子どもたちを受け入れたこと、「殿下の里づくり組合」を設立して、バイキング形式農家レストランの経営を行っていることなどを話された。いずれも、地区民の熱い思いが伝わり参加者に大きな感銘を与えた。

午後は武周ヶ池に移動し、武周地区の歴史や地域のいわれなどについて説明があった。里山の様々な取組の実例と抱えている問題を知り、同じ問題を抱える地域にとって大変参考になるものであった。

12 月 8 日　〇遺跡まつりの取組（酒生地区）　　酒生まつり推進協議会　事務局長　山形　裕之　氏
〇戦国に生きた新田義貞の生涯（明新地区）　福井・新田塚郷土歴史研究会　会長　河原　俊厚　氏

酒生地区では、歴史遺産が数多く残る地区としてアピールすることを目的とし「遺跡まつり」が平成９年より始まった。地区住民が一同に集う祭りとして定着し、地区事業の人材が確保できた反面、人材が固定し内容がマンネリ化する中で、開催内容の見直しが必要だと語られた。

また、明新地区の発表は、南北朝争乱について越前地方で巻き起こった史実を中心にした新田義貞の生涯についての話だった。

どちらも、地域の宝を掘り起こし住民を中心に湧き起こった動きで、地域の魅力発信事業に沿う内容であった。

〈平成 29 年度〉

12 月 2 日　〇地区が誇る歴史遺産　脇屋義助と石丸城（森田地区）　　森田公民館　前館長　吉村　公司　氏

吉村氏には、平成２４年度の福井学講座において、脇屋義助を題材にした森田地区の取組について発表をしていただいている。２回目となる今回は、その後の取組の経過ということで、地域の人たちに伝えるために作られた「脇屋義助と石丸城」の冊子の編集活動や、石丸城を偲ぶ詩のＣＤの制作活動、南北朝時代の歴史などについての話を伺った。

講座生の感想には、“内容の深さに感心した”“深く学べば興味深いことが多くあり、歴史のおもしろさを再認識した”などとあり、大変好評であった。

〈平成 30 年度〉

12 月 15 日　〇円山地区のリゾット米はどのように生まれたか（円山地区）
円山ＣＭＢ〈Circle(円)Mountain(山)Build(築く)〉　代表　　福田　智司　氏

リゾット米を育てるにあたり、組織の立ち上げから現在に至るまでの３年間、多くの人々の協力を得ながら活動を継続してきたという話であった。２年目から 1t の大量生産ができたのは、役員会の理解や様々な人とのつながりがあったからこそで、３年目には地域の小中学校と連携しコラボ企画を行うまでになった。

受講生は、リゾット米を中心に地域おこし、仲間づくりに取り組む福田氏の実践を聞き、大きな感銘を受けていた。

代表者の熱意と指導力やアイデアはもちろん、地区の人々の温かい協力によって実現できた貴重な実践事例であった。